

## (1) 夏場野菜よ順調に

東日本大震災は国中の全てを混乱に追い込んでしまいましたが、青果物取引の場でも一時的にパニックに陥ったものの、春の主産地が関東と以西産地であったことから比較的短期間のうちに平静を取り戻すことができました。心配された風評被害も騒がれながら、逆に支援の動きも出て相殺されたかのようになってきましたが、梅雨入りとともに夏秋期野菜の主力産地が、北関東から東北地方に移ってくるに従い、今後の被災県の動きが気にかかってくると思います。

従来から首都圏での夏秋野菜産地としての東北のウエイトは高く、中でも果菜類を中心に60～70%の占有を誇っていました。例えば、東京中央卸売市場でのきゅうりをみると、6月は埼玉・群馬・福島の順で3位福島が13%台ですが、7月・8月の順位は福島・岩手・秋田が3位までを占め、かつ3県で68%、78%の市場シェアがあります。震災と原発事故によっての被害の影響は中・長期的に極めて大きなものがあるといわなければならないのではないのでしょうか。

大津波で壊滅状況となった農地は宮城で11%、福島で4%と報じられていますが、沿岸部だけでなく放射能汚染が心配される内陸部をも含めてどれ程の農家の生産意欲を殺がれてしまったのでしょうか。仄聞するところでは、県内外へ避難せざるを得なかった地域は別として、大方の産地では時期こそ遅れがちながらも苗の仕立てや定植など農作業は他に優先して行っているとのこと。ただ生産者の減や作付けの遅れなどが収穫期にどう跳ね返るか不分明な面もまた多いようです。

喉元過ぎれば——となりがち消費する側ですが、いつまでも応援セールで消費者を繋ぎ止めることが難しいなかで、頻繁にやっていた特売チラシの数も減ってきています。またコメの世界では大震災による在庫減や新米の供給遅れを懸念するなどして、卸業者間での出回り量が怪しげな動きをしているとも報じられています。何はともあれ、盛夏に向かって出荷期を迎える農産物が順調に生産され、円滑に出回ってもらえるよう願うばかりです。

(鈴木重雄 筆)